

新潟からみた信越本線と北陸本線の展望

在来線を守る三市連絡会
事務局長 大平淑正

1、在来線問題に対する現状と問題点

(1)行政、商工会議所等関係者の取り組みに比べ、県民全体の関心はうすい。

その要因は

- ①新潟から 147km離れている
- ②国鉄・JRの組織・・・他局、他会社＝他県
- ③県当局の2014年問題・・・上越新幹線の枝線化

(2)この間の行政・JRの対応

- ①政治的思惑の中、フル規格による着工ありきで走る
- ②政府・与党合意事項の無条件受け入れ
- ③在来線の存続
利用者負担、財政支出（公共負担）しか出てこない（県のありかた懇報告）
- ④JRが論議にまったく関与していない 一方で、儲かる区間は経営継続

2、在来線の役割と位置づけの明確化

- (1)二次交通としてのとらえ方
- (2)区間限定ぶっち切り路線
- (3)ほくほく線の活用
- (4)県都新潟とのアクセス
- (5)貨物輸送の重要性
- (6)北信越をベースに周辺エリアのネットワークの確立

3、三市連絡会の任務と活動の基本

(1)任務

- ①佐渡航路存続における上越市の例
- ②行政と連係した運動 — 三市連絡会の当面の任務
- ③三市（妙高・上越・糸魚川）の幅広い階層との協力・共同
地域全体の運動不可欠

(2)活動の基本

- ①現行スキームの検証と見直し
- ②国・JRの責任の明確化
 - ・新たな法整備
 - ・JRの資本参加
 - ・ダイヤ、運行形態等の協議機関の設置
- ③あり方懇報告後の運動